

まちひとしごと

Vol. 8

(一社) 倶知安観光協会会長 よしだ さとし 吉田 聡さん



グローバルなまちづくりとひとづくりを

「これまで外から来た人たちが発掘して磨き上げてきたこのまちの魅力を、今度は倶知安に住む人々が見つめ直し、その良さを外に売り出してほしい。町民全員が倶知安のセールスマンになって欲しいです」と今年の5月に一般社団法人倶知安観光協会会長に就任した吉田聡さんは語る。

倶知安生まれの倶知安育ち、ご両親が商売をされていた場所で、現在は司法書士として、多くの町民に頼られている。

「子どもの頃は、冬になると旭ヶ丘スキー場にスキーを担いで通いました。きつと自分と同じくらい年齢の倶知安の子どもはみんなそうだったと思います」

そんな一般的な倶知安の少年だった吉田さんは、中学校卒業を機に倶

知安を離れ函館へ進学する。

「年ごろの子どもにはよくありがちな、田舎から出たい、都会に住んでみたい、というのが動機なんです」と吉田さんは少し恥ずかしそうに語っていた。

その後は、東京の大学へと進学し、猛暑と巨大なゴキブリとの出会いにより、ここ（東京）には住めないとの思いを強くしたという。

「両親が商売をやっていたこともあり、勤め人になるというのとは考えもみませんでした。当然のように自分は北海道に戻って何か商売をするのだろうと思っていました」

猛勉強の末、司法書士となつてからは、1年間カナダに渡り法律文書の翻訳を勉強する中で、生きた英会話を学び、今は亡き野坂忠夫司法書士の勧めもあつて平成12年には倶知安で現在の事務所を開所した。

その後、平成15年頃からひらふスキー場周辺で外国人による不動産開発が活発になり始めたが、当時は、外国人の事業に対する地元事業者からの理解を得るのは難しかったという。

「僕は彼らが倶知安を元気にしようとして、ここにはそれだけのポテンシャルがあると頑張っていたことも理解していました」

幸いにカナダでの経験により法律関係の英会話ができたことから、外国人事業者と地元事業者などとの間

に入り、その手助けをしてきた。

「結果として彼らの頑張りは、現在この町が、国内外から多くの観光客が訪れ、世界中から注目を浴びる場所となった要因の一つだったと思つています。また、これからも観光協会会長として地域で働く外国人や観光客と地元住民・事業者との橋渡しをしていきたいと考えています」

吉田さんは、小学生の子どもを持つ親でもあり、本町での教育について次のように話した。

「倶知安らしい教育環境の中で世界に通用する倶知安っ子が育つてほしいですね。小さい時から生きた英語が学べる。話すことで世界が広がる。本当の意味でのグローバルな倶知安っ子が育つてほしい。ここには本当に素晴らしい環境が揃つていますから。リゾートとしてのクオリティを高めながら、まちづくりと同時にひとづくりを」

この取材中、たまたま事務所を訪れた外国人男性と英語でコミュニケーションをとっていた吉田さん。そこには本当の意味でのグローバルな倶知安っ子の姿があつた。

※まちひとしごとは不定期連載です